



# 東京今日新聞

千十六号

書置の事。

今世家火と野我りあ  
人の思くも耻色く只

とも焼死く二人の者い添

せぬそ灰と埃へ我散り秋月  
光道信士俗名大谷五郎と愚文と

つらねて柱よ張なき 囲炉裏の柴火と  
移し茶碗でたると焼酒の酔い乗とて瀧

園とつらねて見ると燃盛る 煙火の勢  
とつらねて編伴いさつて道出 浪華まきりて

捕とつらねて河内河内村の寡婦とよでと  
私通て算とよとつらねて入とつらねて安五郎

とつらねて白知漢あり

時と重

筆記



具足屋

ホリエイ

一萬高  
芳義

